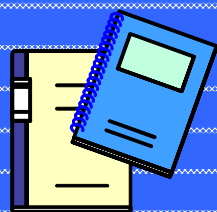
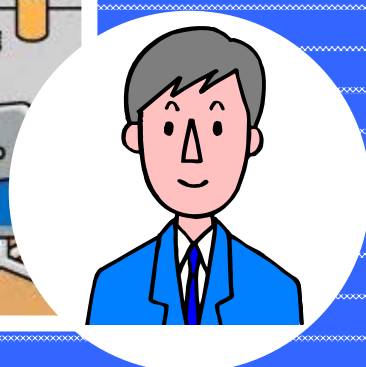
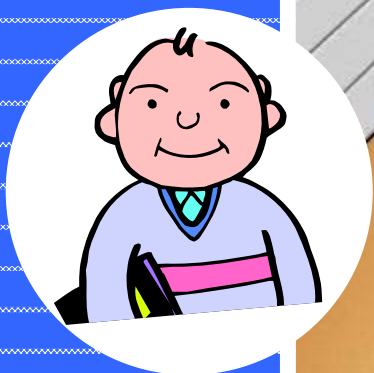
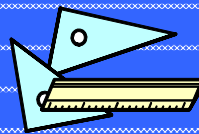
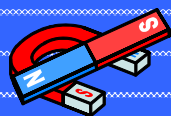


校内研修・OJT及び校外研修との
関連を図った個人研修活性化プログラム

教師力

向上サポートブック



四日市市教育委員会

法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

【教育基本法 第九条より】

教師力の向上を目指して

四日市市では、平成19年3月に、一人一人の教職員が客観的に自己の教師力を見つめ、自己研鑽するための資料として「教師力 自己相互研鑽のために」(四日市市教育委員会・四日市市立小学校長会・四日市市立中学校長会編)を発行し、全教職員に配付しました。この資料は、教職経験に合わせて、それぞれの節目に自分の姿を厳しく振り返り、自分の良さを伸ばすとともに、不十分な点を研修などで補うために作成したものです。

この度、この資料の所期の目的「教師力の向上」をさらに実のあるものとするため、個人研修の効果的な推進を中心とした手引書「教師力向上サポートブック」を、本市独自に開発しました。本書の活用により、教職員としての専門性や実践的指導力、幅広い社会性や柔軟な発想、対人関係のスキルなどを養うような研修を促し、本市教職員の更なる教師力の向上を目指します。以下、具体的な取り組みについて、3つの方針を示します。

1 「自己理解」に重点を置いた個人研修プログラムの推進

学習のサイクル「ラーニングエンジン」の枠組みに基づいた個人研修プログラムによって、効果的な研修を推進します。また、「教師力 自己相互研鑽のために」を用いて①豊かな見識・人間性、②指導力、③経営力の視点から自己分析をすることで、自己理解が進むとともに、目標が明確化するため、個々の意欲が向上します。

本プログラムでは、一人一人の教職員が、それぞれのライフステージで身に付けるべき資質・能力【巻末資料No.8】を意識して、研修に取り組むこととなります。

また、このような取り組みを通して、社会人・職業人としての修養を深めていくことを期待します。

2 校園内研修・OJT及び校外研修との関連による効果的な研修の実現

研修の段階をプログラムの「気づき」「選択と判断」「行動」「経験」「振り返りと内省」の5つのステップにあてはめ、組織的に進めます。校園内においては、同僚と切磋琢磨しながら相互研鑽を深め、教職員としての専門性を高めます。また、校外研修においては、異なる校種の人や社会・地域の人とのかかわり中で、社会性や人間性を磨きます。このような取り組みを通して、個人研修と校園内研修・OJT及び校外研修とが効果的に関連し、個人のみならず組織としての教育力が高まります。

3 四日市市全教職員による取り組み(実施期間:3ヵ年)

本サポートブックを四日市市の全教職員に配付するとともに、本プログラムを活用した取り組みを市内全公立幼稚園、小中学校において実施します。実施期間は3ヵ年(平成21年度～23年度)とします。

四日市市教育委員会教育支援課 教職員研修基本方針構造図

目指す子どもの姿



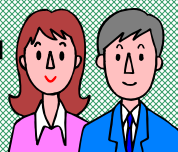
新しい時代をたくましく
切り拓いていく子ども

- 「四日市市学校教育ビジョン」 -

求められる教師の姿

- 「絶えず保育・授業改革にはげむ教師」
- 「子どもに寄り添い、よさや可能性を伸ばす教師」
- 「子どもを育てる厳しさを持つ教師」
- 「自己変革をめざし、学び続ける教師」

- 「学校教育指導方針」 VII
教職員の資質・能力の向上 -



目指す学校経営

人材育成と組織能力の向上

- 校内研修の改善・充実に向けて
- 「教師力 自己相互研鑽のために」の活用

- 「学校経営方針」 -



教育支援課

四日市市教育委員会教育支援課 教職員研修体系



※教師力向上の視点

【教職員の資質・能力の向上を目指して】

- 1 教職員の実態把握
 - ・教職員年齢構成への対応等
- 2 教職員の意識向上
 - ・研修意欲の向上等
- 3 教職員の資質向上
 - ・つけるべき力の明確化等
- 4 本市重点教育課題への対応
 - ・学びの一体化、基礎学力向上等

※ 研修改善の視点

【効果的・効率的な研修を目指して】

- 1 研修体系の整備
- 2 研修の精選・効率化
- 3 研修方法の工夫・改善
- 4 研修内容の積極的活用
- 5 研修成果の評価と事業改善
- 6 各校園におけるOJTとの関連づけ

重点11 教職員研修の充実

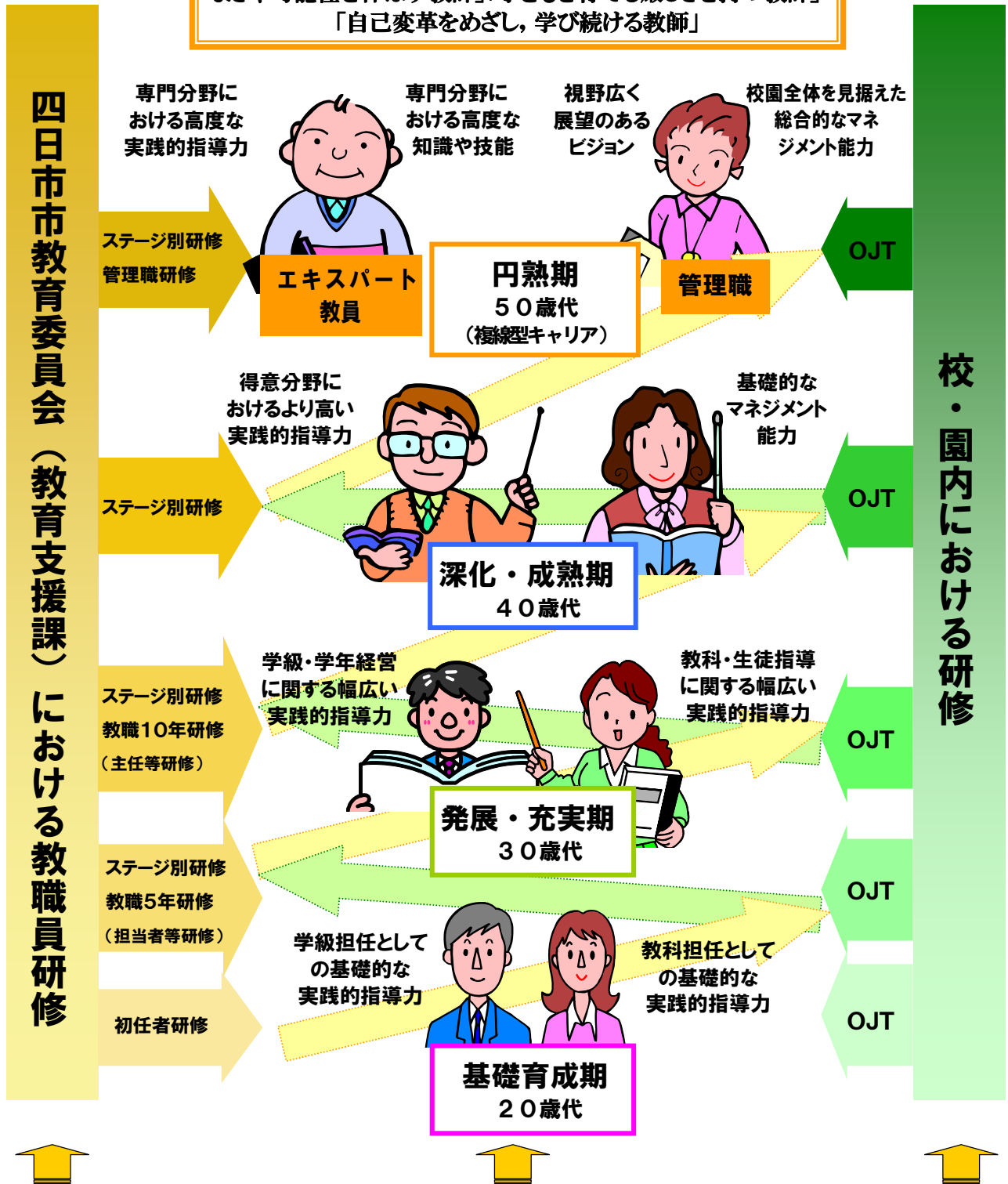
今日的教育課題に対応した研修，教材研究や指導技術に関する研修，年代(ステージ)や職務内容に応じた研修を重点として実施

- 「四日市市学校教育ビジョン」 -

各ライフステージに応じて身につけるべき資質・能力

＜求められる教師の姿＞

「絶えず保育・授業改革にはげむ教師」「子どもに寄り添い、
よさや可能性を伸ばす教師」「子どもを育てる厳しさを持つ教師」
「自己変革をめざし、学び続ける教師」



四日市市学校教育ビジョン 重点11 教職員研修の充実

もくじ

P.1..... 教師力の向上を目指して
 P.2..... 四日市市教育委員会教育支援課 教職員研修基本方針構造図
 P.3..... 各ライフステージに応じて身につけるべき資質・能力
P.4..... もくじ
P.5..... 研修プログラム 一年間の流れ
P.6～7..... 研修プログラムの活用にあたって
P.8～P.21... 研修プログラム

STEP 1 「気づき」のステップ

- 1 自分を知ろう①【自分の「強み・弱み」を知る】・・・P.8
- 2 自分を知ろう②【チェックからの自己分析】・・・P.10

STEP 2 「選択と判断」のステップ

- 1 自己分析を深めよう・・・・・・・・・・・・・・・・P.11
- 2 個人目標を設定しよう・・・・・・・・・・・・P.12
- 3 個人年間研修計画を作成しよう・・・・・・・・P.12

STEP 3 「行動」のステップ

- 1 校外研修への積極的な参加・・・・・・・・P.14
- 2 校内外研修への積極的な取り組み・・・・P.15
- 3 地域や社会で活躍する人々からの学び・・・P.16
- 4 ポートフォリオ作成のすすめ・・・・・・・P.17

STEP 4 「経験」のステップ

- 1 研修内容の実践化・・・・・・・・・・・・P.18
- 2 実践化を促す研修講座を活用しよう・・・・P.19

STEP 5 「振り返りと内省」のステップ

- 1 研修内容を振り返ろう【中間の振り返り】・・・P.20
- 2 研修内容を振り返ろう【一年間の振り返り】・・・P.21

P.22..... 引用文献 ・ 参考文献

P.23～P.32.. 資料



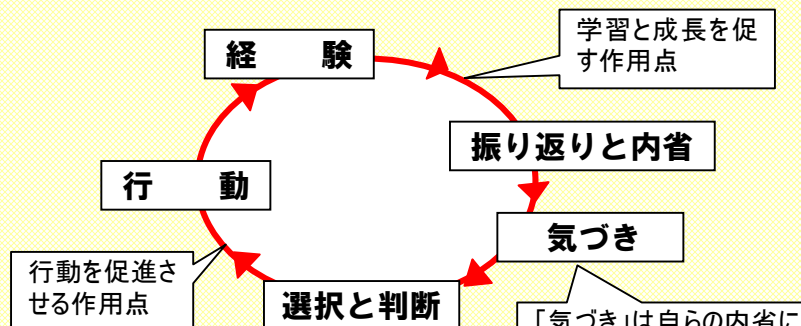
研修担当者のためには、項目ごとに「**研修担当者のPoint**」の解説がつきます！中心となって、プログラムを進めてください！！

研修プログラム 一年間の流れ

■研修プログラムの流れは、「学習のサイクル『ラーニングエンジン』」に基づき構成されています。

学習のサイクル「ラーニングエンジン」

河北隆子・脇経郎(2006)によると、「人をより効果的に学習に導き、成長させるには、人が学習し、成長する一連の流れ『ラーニングエンジン』を意識すると良い」とし、「特に、『振り返ること』と『行動すること』に働きかけ、支援することが成長を促す作用点である」と述べている。この「ラーニングエンジン」のサイクルを教職員の研修に取り入れることにより、より有効な研修の成果を生み出せるものである。



河北隆子・脇経郎(2006)

STEP1 「気づき」 のステップ

- (自分を知らう)
- 「教師力 自己相互研鑽のために」でのチェック
- チェックから自己分析
- 「強み・弱み」の整理

校園内研修・OJT

- 「教師力 自己相互研鑽のために」でのチェック
- チェックから自己分析

校外研修(講座)

STEP2 「選択 と判断」 のステップ

- 自己の新たな気づきの整理
- 研修目標の設定
- 研修計画の作成

- 他者からの評価
—グループでのシェアリング—
【研修会でのワークショップ】

- 研修計画の作成

STEP3 「行動」 のステップ

- 校外研修への参加
- 校園内研修との関連
- 研修機会を広げる
- ポートフォリオの作成

- 校外研修への一斉参加
- 校園内研修の充実

- 研修講座の受講

STEP4 「経験」 のステップ

- 研修内容の実践化
- 校園内研修での発表
- 職場への還元

- 校園内研修での実践化
- 校園内研修での発表
- OJTとの関連

- 講座内容の理解
- 講座内容の実践化
- 講座内容の還元
- 連続講座のポートフォリオ

STEP5 「振り返り と内省」 のステップ

- 校園内研修・研修講座ごとの振り返りや調査票
- ポートフォリオでの振り返り
- 1年間の振り返り

- 校園内研修の振り返り

- 理解度・活用度調査

研修プログラムの活用にあたって

「研修」

職務上必要とされる知識や技能を高めるために、ある期間特別に勉強や実習をすること。また、そのために行われる講習。

【「大辞林」より】



みなさんにとって「研修」とは、どんなものですか？
自分のための大切な時間となっていますか？

校園内の全体研修・学年研修、OJT および教育委員会の研修講座(校外研修)など「研修」の機会で、自分を磨くことが「子どもたちのよりよい学び」に直結します。



この「研修プログラム」には、そのヒントがあります!!

個人研修の充実に！

- ・あなたの「強み・弱み」は何ですか？また、それを自分自身で把握していますか？
- ・校務分掌の業務担当としてつけておきたい力は何ですか？
- ・日ごろから研修に対する意欲が高まらないということはありませんか？

研修の基本は、各個人の意識です。このプログラムは、研修への意識づけ、計画性、継続性に重点をおいた構成になっています。

校園内研修・OJTの充実に！

校園内研修のねらいに向け、教職員が1つになって、前向きに研修していくことで、さらに意欲が高まります。

本プログラムを利用した個人研修計画の中に、校園内での研修テーマを位置づけることで、おのずとOJTも活性化され、校園内研修が充実します。

※OJT⇒On the Job Trainingの略。職場で上司や先輩によって、個々の教育課題や職務遂行の過程で日常的に指導・育成される方法。計画的、意図的、継続的に実施することが必要とされる。

**「教職員研修の充実」は、
「四日市市学校教育ビジョン」の重点です。**

四日市市学校教育ビジョンでは、重点11に「教職員研修の充実」を掲げています。教育委員会では、個人の課題や各校園の課題、教育全般の課題等に対応できるようさまざまな研修を企画・実施しています。

このプログラムは、さまざまな研修を効果的に活用し、教職員の資質向上を目指した四日市市独自のプログラムです。

研修プログラムの活用

一人一人の「教師力の向上・研修の充実」を目指します



教師力を高めたい！
という教職員へ



年間を見通した学習のサイクルに
基づき、自己を見つめ、
個人研修計画を立てて、
充実した研修を目指しましょう！

個人研修の充実

校園内研修への位置づけによって、
より幅広い活用が可能です！

OJTの活性化

につながります！
職場における日常の研修
に対する意識向上
目指しましょう！

校外研修

(教育委員会の研修講座等)
を有効に利用したい！
という教職員へ

本プログラムによって、
目的意識を持った受講、充実した
研修を目指しましょう！

校外研修の有効利用

校園内研修
を充実させたい！
という研修担当者へ

本プログラムによって、教職員
の研修に対する意識の高揚や
統一を目指しましょう！

校園内研修の充実

STEP 1

「気づき」のステップ

1 自分を知ろう①【自分の「強み・弱み」を知る】

個人研修

- ① 「教師力 自己相互研鑽のために」【資料No.1】を用い、自己分析を行います。
 - 【資料No.1】は「教師力 自己相互研鑽のために」に「自己評価」欄がついたシートです。
 - 項目ごとに自己評価(○をつける, ABC 評価をする等)を行い、自らの実践を振り返ります。

- ② 「教職員 ICT 活用指導力チェックリスト」【資料No.2】を用い、ICT活用指導力の自己分析を行います。

II		項目名				
		B 主に子どもの学習に関わること				
分類名	観点	具体的な教師力			自己評価	
2 子ども理解	① 備への対応	子どもとのコミュニケーションを通して、子どもの思いを知ることができる。	初任 5年	10年	15~20年	
		子ども一人一人の長所、短所を把握することができる。				
		子どもそれぞれの得手、不得手の教科をつかむことができる。				
		他の教師と密に連絡を取り合い、子ども理解に努めることができる。				
		日常の観察を積み重ねながら、子どもの資力の育養を知ることができる。				
		子ども一人一人の学習状況を把握することができる。				
	② 教育相談	子どもに対して適切に教育相談を行うことができる。				
		子どもに応じて適切な相談機関、専門機関につなげることができる。				
		子どもの状況を理解した上で、保護者等の相談を受けることができる。				
	③ 特別支援	障害に対する知識をもち、障害のある児童生徒の実態把握ができる。				
		支援教育コーディネーターの役割を果たすことができる。				
		特別支援教育の体制について、子どもの状態をつかんだ上で、指導助言ができる。				



資料 No. 1 「教師力 自己相互研鑽のために」

ICT活用指導力の基準案(チェックリスト)中学校版

4: かなりできる, 3: 少しかできる, 2: あまりできない, 1: ぜんぜんできない (該当するところに○印を)

分類	具体的なICT活用指導力	4	3	2	1
A 教材研究・指導の準備・評価等にICTを活用する能力	1 生徒が学習活動に意欲的・主体的に取り組むために、授業のどの場面(コンピュータやインターネットなどを活用した)を計画する。				
	2 授業で使う教材や参考資料などを事前に集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する。				
	3 授業に必要な情報を印刷したり提示したりするために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。				
	4 指導に活かす評価を充実させるために、デジタルカメラやコンピュータなどを活用して生徒の作品や学習状況を記録したり管理・集計したりする。				
B 授業中にICTを活用して指導する能力	1 授業導入時に学習に対する生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータやインターネットなどを活用して資料などを効果的に提示する。				
	2 疑問点や問題点などを明確にして生徒一人一人に課題意識を持たせるために、随時コンピュータやインターネットなどを活用して資料などを効果的に提示する。				
	3 授業展開時に学習内容をわかりやすく説明したり生徒の思考を深めたりするために、コンピュータやインターネットなどを活用して資料などを効果的に提示する。				
	4 学習内容を終わる際に生徒の知識定着を図るために、コンピュータやインターネットなどを活用して資料などをわかりやすく提示する。				
C 児童のICT活用を指導する能力	1 生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。				
	2 生徒がワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。				
	3 生徒がワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して、文章や図表により効果的にまとめることができるよう指導する。				
	4 生徒が学習ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして知識の定着や技能の習得を図るよう指導する。				
D 情報モラルを指導する能力	1 情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重する。				
	2 情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を正しく理解し、反社会的な行為や違法な行為を行わない。				
	3 情報を活用する際にもなる危険性について理解し、それに対処するための方法を身に付け、情報を正しく安全に活用する。				
	4 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。				
E 校務・ICTを活用する能力	1 校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料を作成する。				
	2 保護者・地域、教員間の連携協力を図るために、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。				

資料 No. 2 「教職員 ICT 活用指導力 チェックリスト」



研修担当者のPoint

自己評価の場を校園内研修会に位置づけ、全職員で一斉に行います。チェック項目の内容や判断の基準の確認などが可能となり、研修意識が向上します。このチェックシートは4項目に分類されており、項目を自由に設定・変更ができるようになっています。

学校園の実情や研修テーマに即した形で項目の精選などのアレンジを行い実施していきます。

校園内研修・OJT

「教師力 自己相互研鑽のために」の利用にあたって・・・

□ 「教師力 自己相互研鑽のために」とは

「教師力 自己相互研鑽のために」には、教職経験年数に応じて身につけるべき力(教師力)が領域別に明記されています。それぞれの項目について自己評価することにより、現在の自分を振り返ります。

分類項目

I 豊かな見識・人間性

A 主に自己研鑽にかかわること

II 指導力

B 主に子どもの学習にかかわること(学習指導)

C 主に子どもの生活にかかわること(生活指導)

III 経営力

D 主に経営・組織にかかわること

E 主に法規にかかわること

ステージⅠ 基礎育成期 : 経験年数おおむね 1～7年

ステージⅡ 発展・充実期 : 経験年数おおむね 8～15年

ステージⅢ 深化・成熟期 : 経験年数おおむね 16～25年

ステージⅣ 円熟期 : 経験年数おおむね 26～38年

経験年数や職務に応じて、それぞれに必要な資質・能力は異なります。また、学校園の研究領域や重点によっても、必要な研修の方向性が決まってきます。学校園や個人の実情に照らし合わせながら、必要な箇所を必要に応じて取り出し、有効に活用しましょう。

Step1 気づきのステップ

委員会(教育センター) 教職員研修講座一覧

教育支援課(教育センター) 四日市市晴陽町2番2号

研修内容	対象	備考・関係課	参考
講義・演習「子どもの発動性における授業づくり」	小・中教員 定員0名	教職経験1～7年の教諭に優先	ⅠⅡ

Step3 行動のステップ

教職員研修講座一覧には、受講対象となるステージが記載されています。身につけるべき教師力を意識し、自分にあった講座を選択しましょう。

「教職員 ICT 活用指導力チェックリスト」の利用にあたって・・・

四日市市では、教職員コンピュータの導入、小学校コンピュータ教室のPC更新等を行い、ICT環境の整備を格段に進めたところです。大型提示装置、プロジェクタ等のICT機器を授業に導入することは、指示の明確化、情報の共有化、意欲の喚起などの効果をもたらします。今、これらのICT機器やソフトを活用した授業の推進が求められ、そのために、教職員のICT活用能力を高めていくことが必要です。

このチェックシートで自分の力を確認し、今後の課題を整理します。



※この資料は、文部科学省「教員のICT活用指導力の基準の具体化・明確化に関する検討会(第5回)」資料をもとに作成されています。

2 自分を知ろう② [チェックからの自己分析]

個人研修

- ① 「教師力 自己相互研鑽のために」「教職員ICT活用指導力チェックリスト」の自己評価結果を分析します。
- ② 「自己分析シート」【資料No.3】を使い、領域別に自分の「強み・弱み」を整理します。
 - 「強み」は「実践できていること・充実している力」, 「弱み」は「今後の課題・つきたい力・実践したいこと」という観点でまとめましょう。文章化することで、自己分析が深まります。

資料No.3		平成 年度 校 園 内 研 修 自 己 分 析 シ ー ト	
四日市市立			
名 前		お も ぬ 分 掌	
教職経験年数 (該当するライフステージ)			
I 基礎育成期 (おおむね教職経験 1~7 年)		II 発展・充実期 (おおむね教職経験 8~14 年)	
III 深化・成熟期 (おおむね教職経験 15~25 年)		IV 円熟期 (おおむね教職経験 26~38 年)	
1 『教師力 自己相互研鑽のために』(校・園版)・『教職員 ICT 活用指導力チェックリスト』を用いて今の自分の姿を自己診断しましょう。			
2 自己診断をもとに、以下の4つの分野について、自分の強みと弱みを明らかにしましょう。 * Oが多かった項目にチェックを入れましょう。チェックをもとに、自分の強みと弱みを分析しましょう。			
I 研修 主に自己研鑽にかかわること			
1 研修 (主に修養) ① 社会人としての基礎 ② 教師としての資質 ③ 人権感覚 ④ 職務に対する姿勢 ⑤ 自己認知 (自分の個性)	強み		
2 研修 (教育観・授業観) ① 校内研修 ② 自主研修 ③ 教育参画 (長期的視察) ④ 人材育成 (校務分掌の経験)	弱み		
II 指導力 主に子どもの学習に関わること (学習指導)			
1 授業づくり ① 教材研究 ② 指導計画 ③ 典拠・授業展開 ④ 板書 ⑤ 学習規律 ⑥ 机間指導 ⑦ シート指導 ⑧ 学習習慣 ⑨ 授業の反省 特 評価	強み	3 教育課程 ① ビジョンとの関連 ② 学習指導要領 ③ 評価と改善	
2 子ども理解 ① 態への対応 ② 教育相談 ③ 特別支援 ④ その他	弱み	4 生き力指導 (進路指導) ① 職業観・勤労観 ② 進路選択指導 5 特別活動 ① 教育活動への位置づけ ② 企画・運営力	
III 指導力 主に子どもの生活に関わること (生徒指導)			
① 指示の出し方 ② ルール指導 ③ 生活習慣 ④ 進路指導 ⑤ 服装指導 ⑥ 健康・保健 ⑦ 生徒会・部活動	強み	3 保護者との連携 ① 家庭訪問 ② 協働の方向性	
2 いじめ、不登校等への対応 ① 指導の方向性 ② 校内組織の活用 ③ 外部との連携	弱み		
III 経営力 主に経営・組織に関わること			
1 学級経営 (対子ども) ① 経営計画 ② 子どもとの関係 ③ 班活動 ④ 通信 ⑤ 整理整頓 ⑥ 学級掲示 ⑦ 係活動	強み	2 学年経営 (教職員総括) ③ 学校経営 ④ ビジョン ④ 経営 ⑤ 情報管理	
	弱み		
IV ICT活用指導力に関わること			
A 教材研究・指導の準備・評価等に ICT を活用する能力	強み	C 児童の ICT 活用を指導する能力	
B 授業中に ICT を活用して指導する能力	弱み	D 情報モラルを指導する能力 E 校務に ICT を活用する能力	
3 総合自己評価			
自分の強み (実践できていること・充実している力)			
自分の弱み (今後の課題・つきたい力・実践したいこと)			

資料 No. 3

「自己分析シート」

研修担当者のPoint

この「自己分析シート」を用いて、個人の振り返りを促進し、研修への動機づけを生み出します。この取り組みを校 園内研修会へ位置づけ、一斉に行うことで大きな効果が期待できます。

① 自己評価の低い人には…?

→他の人の意見を聞きながら自己分析を行うことで、自分では気づけなかった強みが明らかになり、自己肯定感が高まります。

② 一斉に行うことで…?

→集中して分析ができます。また、校 園内研修のテーマを意識した取り組みになります。

なかなか時間が取れない場合には、「自己分析シート」の完成までを個人で実施し、校 園内研修会では、シエ アリング (次の「選択と判断」のステップで行うワークショップ) を実施することで、目的は十分に達成できます。

校内研修・OJT